

聖書日課 『からし種』 2025.2.2-2.9

<p>2月2日 (日) ゼカリヤ 7章</p>	<p>「果たして、真にわたしのために断食してきたか」(5節)。人々はエルサレムの破壊を覚え断食をし、嘆き悲しんできた。しかし、エルサレムが再建されつつあり、毎年の断食の必要性に疑問を感じ神殿にやってきた。神は彼らに言われた。「正義とあわれみの行いをすることが断食よりも重要である。」私たちの礼拝は何を求めているのだろうか。</p>
<p>3日 (月) ゼカリヤ 8章</p>	<p>「平和の種が蒔かれ、ぶどうの木は実を結び/大地は収穫をもたらし、天は露をください」(12節)。激しい苦難をイスラエルの民に与えられた主が、再びイスラエルに目を向けてくださり、祝福を与えてくださる。しかし、主が求めていることがある。「真実を語り、公平な裁きを行い、平和に暮らすこと」。主は、これを私たちにも求めている。</p>
<p>4日 (火) ゼカリヤ 9章</p>	<p>「見よ、あなたの王が来る。彼は神に従い、勝利を与えられた者/高ぶることなく、ろばに乗って来る/雌ろばの子であるろばに乗って」(9節)。イエスのエルサレム入場(マタイ21:1~11)が、500年以上前に、ここに預言された。私たちはこの預言が成就した事を知っている。さらに主は諸国の民に平和を告げられる。成就を祈ろう！</p>
<p>5日 (水) ゼカリヤ 10章</p>	<p>「わたしは主にあって彼らに力を与える。彼らは御名において歩み続けると/主は言われる」(12節)。主はイスラエルの民を諸国の間にまき散らしたが、憐れみをかけ、再び呼び集められた。そして、主は彼らに力を与える。彼らは御名において歩み続けると、主が言われた。聖霊が注がれたのだろうか？主が与えられる力を祈り求めたい。</p>

聖書日課 『からし種』 2025.2.2-2.9

<p>6日 (木) ゼカリヤ 11章</p>	<p>「災いだ、羊を見捨てる無用の羊飼いたちは。剣が、その腕と右の目に差し向けられる」(17節)。イスラエルは愚かな牧者を受け入れた。この牧者は群れのことを考えず、自分の事しか思っていない。彼は自分の腕(権力)と自分の右目(知力)に頼っている。神は彼が頼っているものを取り去る。私たちは何を頼りにするだろうか。</p>
<p>7日 (金) ゼカリヤ 12章</p>	<p>「わたしはダビデの家とエルサレムの住民に、憐れみと祈りの霊を注ぐ」(10節)。ゼカリヤは聖霊を「憐れみと祈りの霊」と呼んだ。「彼らは、彼ら自らが刺し貫いた者であるわたしを見つめ、独り子を失ったように嘆き、初子の死を悲しむように悲しむ」(10節)。これは聖霊を受けた人々が、メシアが与えられると確信したのではないだろうか？</p>
<p>8日 (土) ゼカリヤ 13章</p>	<p>「その日、ダビデの家とエルサレムの住民のために、罪と汚れを洗い清める一つの泉が開かれる」(1節)。偶像は取り除かれ、偽預言者と汚れた霊も追い払われる。神は「彼がわが名を呼べば、わたしは彼に答え、『彼こそわたしの民』と言い/彼は、『主こそわたしの神』と答えるであろう」(9節)と言われる。 私たちも清める泉を求めよう！</p>
<p>9日 (日) ゼカリヤ 14章</p>	<p>「その日は、主にもみ知られている／そのときは昼もなければ、夜もなく／夕べになっても光がある」(7節)。「その日」は不思議な日。御心が天になるごとく地の上になり、夕べになっても光がある日。十字架の主の命の言はけっして闇に飲み込まれることなく、私たちを照らす光。「主の日」は「その日」の成就を先取りしてみんなで祝い、礼拝をささげる日。ハレルヤ。</p>